

# 男女共同参画だより

「男女共同参画」と聞くと、「難しい」「よくわからない」と思うかもしれませんが、実はごく身近にあるものです。そんな身近なところにある男女共同参画や、市町の地域推進員が日頃行っている男女共同参画推進活動を紹介します。ぜひご覧ください！

## 共に目指す未来へ

## 山武市（佐藤君江）

今回取材を受けてくださったのは、しっかりと人生の目標を持ち、それに向かって努力をしている20歳の新婚さん植谷大典さんと早希さんです。

2人の将来の目標は、早希さんのお父さんの営む造園業を継いで、大きな会社に育て上げることです。

早希さんは4人姉妹の三女で、幼い頃から自分が家業を継ぐことを決めていました。県立茂原樟陽高校の緑地計画科在学中に生徒会活動を通じて大典さんと出会いました。

我孫子高等技術専門校造園科へ進んだ2人は、技能五輪

「造園職種」に挑戦。県大会を経て、全国大会に出場しました。早希さんの出場は女性として県内初でした。全国大会の課題に向けて、学校や家でひたすら庭園制作の練習を続けていく中、不安や疲労に挫けそうにもなりましたが、「相手が頑張っている姿を見ると自分も頑張れる！」と、お互いの存在を励みに、更に毎日の練習に取り組みました。入賞は果たせませんでした。技能五輪全国大会に参加をして、様々な分野で頑張る人たちと出会えたことは、とても良い経験になったそうです。

今、2人は「まずはしっかりと造園の仕事を覚えたい」と別々の造園会社で修行中です。

互いに認め合い、支え合いながら未来を語る2人の姿はキラキラと輝いていて、男女共同参画の意識が自然と溶け込んでいるのを感じました。



## 介護は誰の仕事?!～介護と男女共同参画～

## 銚子市（金尾記子・岩瀬賢氏）

7月23日猛暑と表現すべきか酷暑とすべきか迷う日に「特別養護老人ホームさざんか園」に伺い、男性介護士お二人に取材しました。介護士と聞くと「女性の職場」というイメージを抱く方も多いかもしれませんが、予想どおりさざんか園での男性介護士は全体の約三割とのこと。利用者の多くは『女性』ということもあり、男性介護士のお二人は、トイレや着替えの際に一番気を遣われているとのことでした。

また、利用者は目上の方なので話し方・接し方にも特に気を配っているとのことでした。女性が多い職場で働いているお二人ですが、今まで働きにくさを感じたことはないそうです。

介護は3Kの仕事とされ、「きつい」、「汚い」、「危険」と言われていますが、実際には楽しくやりがいのある仕事であることを、介護士を目指す後輩たちに伝えたいと話されました。介護士は、女性専門でなく男性専門でもない男女共同参画の仕事と感じました。



町の中央公民館には中高年の男女が 37 団体に所属して活動中です。

特に女性が多く参加できる、舞踊・編み物・コーラス・陶芸・御殿まり等の講座があります。

年代は、ほとんどが 60 代から 80 代で、陶芸同好会には 90 代の女性が参加しており、家族や仲間の協力で元気に通い町民文化祭では作品を展示発表しています。

もちろん私たち、男女共同参画推進員も展示発表を行い、町民に広く男女共同参画を知ってもらうように頑張っております。

平均寿命が延びている今、少しでも元気に明るくパワーにあふれた毎日を送り認知症予防に心がけたいものです。

女性が趣味やボランティアにと社会に出られるようになったのも家族や男性の理解と協力があったの事、これも男女共同参画のひとつではないかと思えます。

※アクティブシニアとは

→自分なりの価値観を持ち、定年退職後にも趣味やさまざまな活動に意欲的な元気なシニア層



陶芸同好会（九十九里町）

男女共同参画の未来は明るいかも？～あれから2年たって～ 東金市(石川安子・古川煌子)

一昨年、「男女共同参画の未来は明るいかも？」というテーマで、市内に本社がある南総通運株式会社の實原さんと橋本さんに産休・育児休暇制度の状況についてお話を伺いました。あれから2年、どのような変化があったのかな？と再び会いに伺ってみると、お二人が2年前と変わらない、にこやかな笑顔で迎えてくださいました。早速お話を聞いてみると、最近、育児休暇を終えた女性社員の方が復職し、時短制度を利用して働いているとの事。管理職であるお二人は、業務の調整をしつつも暖かく見守りたいとおっしゃっていました。



また、月3日の「ノー残業デー」を本社部門で始めたそうで、普段忙しく働いている方もその日ばかりは競うように退社するそうです。「つい、自分達の頃と比べてしまうけれど、時代に合った働き方をする社員を応援したい」と話すお二人の表情は、とてもにこやかでした。

現在、管理職40人のうち4人が女性だそうですが、みなさんご家族の協力が大きな力となっているのでしょうか。みんなが生き生きと働くことのできる社会を目指して、まずは家庭や地域から思いやりの和が広がるのが、私たち推進員の目標です。

※時短制度とは→勤務時間を短縮して働くことができる制度。法で定められたもののほか、企業が独自に設けている場合もある。



千葉県男女共同参画地域推進員とは

男女共同参画社会づくりを進めていくためには、県民一人ひとりの意識を高めることが必要です。

そのため、千葉県では「千葉県男女共同参画地域推進員」を知事が委嘱し、地域推進員は県内6つの地域に分かれて活動しています。

地域推進員は、地域と市町村・県とのパイプ役となり、各地域の特性を踏まえて、講座・講演会の開催や広報紙の配布などの事業を通じ、地域での男女共同参画の意識の普及・啓発をしています。

市内で、書道教室を開いている藤井さん、27歳。「育ててくれた地域に恩返しをしたい。」との思いで始めた『ちいき新聞』の発行。「これなら読んでくれるだろう」と書道を生かして「手書き」に。取材から配布まで一人で行って、初回は5000部を発行。今は、支援して下さる人も出来、7500部を発行するまでに。取材を通して人との繋がりも出来、「私のような若い力でも刺激を与えられれば、まちの活性化に繋がるかも」と、語ってくれました。と書くと、スムーズに進んできたと思われそうですが、ここまで来るには、様々な経験を積み、起業する大変さも知りました。



「この『ちいき新聞』を第一歩に、今まで学んできたことや、経験等から、自分の形を作り、将来に生かしていきたい。そして自分を応援してくれる人に報いたい。また、書道教室の生徒さんのお母さんたちとの交流から、彼女たちの輝ける場所を、男性の方たちの協力を得ながら作りたい。」と夢を話してくれました。がんばれ！藤井結花さん。

## 我が町のアグリカルチャービューティ

## 横芝光町（半田美智子・伊藤清美）

我が町のアグリカルチャービューティ、實川真由美さんを紹介します。

真由美さんは、結婚を機に農業に携わり、ご夫婦で新たに梨の栽培に取り組みました。次第に農業の魅力と可能性に気づき、大きな遣り甲斐を感じたそうです。



開発した商品を前に「農業の魅力」を語る  
株式会社アグリスリー 實川真由美さん

平成23年には「株式会社アグリスリー」をご夫婦で立ち上げ、収穫した農作物で商品開発にも意欲的に取り組まれています。ジャムやマスタード、去年は廃棄野菜を活用したドレッシングの商品化も果たし販売しています。

また、小学校で子供たちに“食”の話をしたり、ジャム作りを指導したりと、食育の面でも活躍されています。

今後についてお尋ねすると、「様々な人との出会いを大切に、農業の魅力の発信と既存の農業イメージを変えていきたい」とのことでした。

農業から生まれたアイデアを実現させる飽くなき挑戦者真由美さんは、町の農業女子のロールモデルとなることでしょう。

## 頑張っています！初の女性農業委員さん誕生！

## 旭市（宮穂広子・伊藤浩子）

旭市で初の女性農業委員が昨年7月に二人誕生しました。

根本さんは、何年も前から女性団体より農業委員のお話を頂いていたが、当初は、周りの理解が得られず、現在も家庭や農業が忙しく、とても受けられないと思ったが、夫が背中を押してくれ、頑張ってみようという気持ちになったそうです。大松さんは、女性農業団体の男女共同参画推進運動をしてきた中で、まさか自分に話が来るとは思わなかったが、これまでの皆の苦勞を考えるとやらなければとの思いにかられたということでした。

各種行事では、野菜を持ち寄ったり、物々交換して親睦を深めたり、女性目線の新しい発想が功を奏し、今はただ夢中で取り組んでいるそうです。「委員会は緊張するが、男性委員さんも気を使ってくださり、優しい。むしろ、女性だからと甘えずにしっかりと仕事をして、後に続く女性のためにも頑張らなければ。」と語っていただきました。





自然に囲まれた町の一角にある芝山公園。ここでは、毎年、秋になると「ハンドメイドフェスタ in しばやま公園」が開催されます。今年で7回目を迎えるこの催しは、現在、フードコーナー、ワークショップなど100以上の出店が並び、訪れる人で賑わっています。

実際に芝フェスを立ち上げた平田いづみさんを訪ね、お話を伺いました。

「町を盛り上げるために、人の集まることをしたい。」と始めたのがきっかけだそうです。

「苦労も多いが楽しみにしてくれる人がいるので続けられる。」と、生き生きと応えてくださった言葉に、芝山町への深い愛着が感じとれました。そして、ハンドメイドのものだけを出店していることも教えていただき、そこには、手作りならではの温もりと平田さんの姿を、重ねて見るような気がします。今、平田さんは、まちづくりを支える大切な存在となり、地域の活性化のために自分ができることを発信してくれていることに、感謝の気持ちでいっぱいです。

この記事が皆さんの手元に届くころには、今年の芝フェスは終わっていますが、毎年、10月の第3日曜日に開催予定です。

一人でも多くの人に参加していただき、芝山町活性化の力になっていただけるとありがたいです。

\*\*\*\*\*  
芝フェスの情報はこちらに載っています。ぜひご参加ください。 <http://shibafes.com/>

地域へ発信 商工会女性部

大網白里市（矢部春美・三木美佐子）

「おいしいかき氷はいかがですか！」毎年夏に開催される“浜まつり”で商工会女性部の皆さんがかき氷を販売する元気な声が聞こえてきます。炎天下の中、まつりの終盤までの長時間販売もなんのその、お客様との会話も弾み、みんなの笑顔がこぼれます。「私たちは、地域の方々とたくさん触れ合うことを大切にしています」と話して下さいました。市主催の“浜まつり”の他にも女性部独自で“花いっぱい運動”や“太巻き寿司講習会”を開催。花いっぱい運動では市の保健文化センターに季節の花を植えたプランターを並べ、訪れた方に喜んで頂いているそうです。

また、広い範囲での女性部（中部ブロック）では「女性部として未婚の男女に何かお手伝いできないかしら？」と話が盛り上がり、「おせっかいお婆さんになるう！！」と婚活イベントを開催し、ゴールインしたカップルもあり、継続中の事業だそうです。



(昨年の浜まつりの様子)

このように女性部では主体的に地域に関わり、コミュニケーションが活発になる活動を継続しています。「私たち女性部の活動が地域の活性化のお役に立てれば嬉しいな。」と語ってくれた笑顔が印象的でした。

＜発行＞ 千葉県男女共同参画地域推進員（海匠・山武地域）  
 ＜事務局＞ 千葉県男女共同参画センター  
 〒260-0001 千葉市中央区都町 2-1-12 千葉県都町合同庁舎 1階  
 Tel 043-420-8411 Fax 043-420-8581